

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-5 環境保全の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課長 森上 浩平 電話番号 0852-22-5123

事務事業の名称	資源循環対策推進事業	
目的	(1) 対象	耕種農家、畜産農家、関係機関及び団体
	(2) 意図	農業分野での環境負荷軽減・資源循環の推進
事業概要	○農業用廃プラスチックの適正処理を図るため、島根県農業用廃プラスチック適正処理推進協議会の開催及び地域協議会等への指導・助言等を実施。 ○また、地域協議会等の関係機関に対して適正処理に係る研修会及び試験を実施し、農業用廃プラスチックリサイクル処理推進員を養成。 ○良質たい肥の製造と流通・利活用の推進を図るため、畜産農家と耕種農家との連携や、県HPに掲載するたい肥マップの更新等を実施。	

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		85.00	85.00	85.00	85.00	
	リサイクル量/回収量		実績値	84.90	83.90	84.30	78.20		%
			達成率		98.70	99.20	92.00		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		112,000	120,000	128,000	136,000		トン
	良質たい肥流通量		実績値	103,930	115,362	113,395	107,093		トン
	県内で流通している特殊肥料の届出のあるたい肥の量		達成率		103.00	94.50	83.70		%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	513	809
うち一般財源(千円)	513	809

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 平成26年度の農業用廃プラスチックリサイクル率は78.2%であり、ここ最近横ばいである数値（85%弱）を下回り、80%を切った。
- 県下すべての地域（10地域）で地域協議会等を通じた処理が行われ、8地域のリサイクル率は100%かそれに近い数値であるが、残る2地域が低率（30%前後）となっている。
- 平成26年度の良質たい肥流通量107,093トンも、前年及び最近3年間平均（110,895トン）を下回り、目標値との乖離が大きくなっている。
- ただし、家畜飼養戸数当たり及び家畜飼養頭数当たりの流通量で見ると、ほぼ横ばいとなっている。  
 【飼養戸数当たり】 H25：82.1ト/戸 H26：83.2ト/戸 【飼養頭数当たり】 H25：1.35ト/頭(羽) H26：1.36ト/頭(羽)

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

県HP上に「たい肥マップ」を掲載し、たい肥利用の促進を図っているが、耕種農家が求めるより有用な情報とするため、有機JAS登録認定機関と連携し、随時「有機JAS適合資材」情報を付与することとした。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- 農業用廃プラスチック処理は、全ての地域で地域協議会等を通じた適正処理の推進が図られ、組織的な回収の取組は定着しているものの、リサイクル率が伸び悩んでいる。
- 良質たい肥の流通量も伸び悩んでいる。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- 農業用廃プラスチック処理のリサイクルは、2地域（雲南地域・石西地域）において低いリサイクル率となっていることから、全体の数値を引き下げている。
- 良質たい肥の流通量については、家畜飼養農家や飼養頭数が減少傾向にあることが背景にあるものの、耕畜連携事例に対してたい肥・土壌の分析や検討会等を実施し利活用を推進する取組の成果が十分に波及していないこと一因にある。

### ③原因を解消するための「課題」

- リサイクル率が低い地域において、これまでと同様の処理を漫然と続けることなく、リサイクル率の向上を意識してもらおう。特に回収時における分別がされていないとリサイクルが進まないため、その点の意識醸成も重要である。
- 耕畜連携事例に対する利活用推進の取組は、これまで水稻を対象に実施してきたが、対象の拡充も検討するとともに、現場での栽培指導等における当該取組の成果活用を推進していく。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 農業用廃プラスチック処理については、特にリサイクル率が低い地域協議会を主として、リサイクル率の向上に向けた意識醸成のための指導・助言等を行うとともに、例年実施する農業用廃プラスチックリサイクル処理推進員の認定・更新のための研修・試験の場においても、対象者に向けた意識醸成を積極的に行う。
- 耕畜連携事例に対する利活用推進の取組については、対象作物をこれまでの水稻から畑作へ変更することを検討し、耕種農家側における利用の裾野を広げていくことを狙うとともに、分析（サンプリング）や検討会等にこれまで以上に普及指導員も積極的に関わってもらうようにし、これらの成果を現場栽培指導で活用していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）